

## 伊藤滋夫先生退職記念号の発刊に寄せて

法務研究科長 尹 龍 澤

伊藤滋夫先生は、平成24年3月末をもって定年退職を迎えられました。

周知のとおり、伊藤先生と言えば要件事実、要件事実と言えば伊藤先生と言われるほど、要件事実の研究では誰もが認める第一人者ですが、それは、法の実務と理論の両面の最先端を歩まれた先生の御経歴と切り離せません。

伊藤先生は、昭和7年（1932年）2月25日に名古屋市でお生まれになり、昭和29年に名古屋大学をご卒業されました。同年、司法修習生となり、昭和31年に東京地方・家庭裁判所判事補として、裁判官の道を歩み始められ、平成7年3月に東京高等裁判所判事部総括の職を辞されるまで、裁判官として勤務されてこられました。裁判官時代には、司法試験の考査委員、司法研修所教官、法制審議会の民訴部会や民法部会の委員として御活躍される一方で、研究に精進されて、平成6年には、「民事判決における判断の構造」という論文で名城大学から博士（法学）の学位を授与されておられます。

平成7年4月に大東文化大学法学部教授として、これまでの裁判官として、また、司法研修所の教官としての経験をいかして、教壇に立たれました。

日本における法科大学院構想が具体化するに伴い、戦後に設立された高等教育機関としては、最も多くの司法試験合格者を輩出している創価大学としても、法科大学院を設立することを決め、設立準備の段階である平成14年4月に、創価大学大学院法学研究科教授として、伊藤先生をお迎えし、平成16

年の法科大学院開設と同時に、法科大学院教授として、教育に当たっていただきました。

とくに本法科大学院として特筆すべきは、従来、司法研修所で行われてきた要件事実教育が法科大学院において行われることとなり、その重要性に鑑み、創価大学が申請した「法科大学院における要件事実教育の充実と発展」を目的とするプロジェクトが文部科学省平成16年度「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」の一つとして採択されましたが、この採択は、ひとえに伊藤先生という大きな存在があったからこそであります。そこで、このプロジェクトを実行する中核として、2004年10月に法科大学院要件事実教育研究所が設立され、伊藤先生には、この所長として、定年を迎えるその日まで御活躍していただきました。

このような伊藤先生の多大な御功績に対して、法務研究科委員会は、先生を本学名誉教授に推挙するとともに、この記念号を献呈させていただきます。

敬愛してやまない伊藤先生が退職されますことは、誠に寂しい思いがいたしますが、今後も、名誉教授として、また、要件事実教育研究所の顧問として、本学法科大学院の発展のためにお力添えくださることは、嬉しい限りであります。

どうか、伊藤先生におかれましては、一層ご自愛のうえ、ますますお元気で、ますますお若く、日本における要件事実研究のさらなる発展のために御尽力くださるようお祈り申し上げます。